



■2011年6月のマンスリーNEWS 第83号

■6月のアークル



皆さんお元気ですか？私達の業界は震災後、あまりにもいろいろな事が起こりすぎて戸惑う日々が続いています。

相変わらず、ペットボトルのキャップ不足がいまだに続いていて、商品の安定供給はまだまだのようです。そんな中、一番不安定だった当社扱いのサントリー商品の供給が落ちついてきました。水のペットボトルは思うようにならないのですが、その他の商品はだいぶ入荷できるようになってきました。聞くところによると、ペットボトルのキャップについては中国からの輸入を急いでいるようでこれが実現すれば、かなり安定供給はできるのではないかと思います。

先月アークルとしては売り上げは順調に推移しました。しかし商品の安定供給が出来なかったために、かなり自販機庫内の在庫が減り、売り切れも大量発生させてしまった5月でした。

実はこの自販機庫内の在庫が減るといのは、私達自販機オペレーターにとっては大変なことなのです。自販機の庫内在庫が減ると売り切れランプが点灯しやすくなるのはもちろんのこと、売る商品が少ないので売り上げも上がらないということになります。自販機をフォローするときに行う作業はどの自販機でもほぼ変わることはありません。

つまり1台あたりの自販機フォローコストというのはどの自販機も同じなのです。よって同じコストをかけて売り上げが上がらないのであれば効率はどうも悪くなっていきます。更に悪いことに、一部の商品が売り切れで注文が来ると、その自販機フォローをしなければなりません、前回訪問時からわずかな時間しか経っていなければ、金庫内の売り上げがかなり少ないのです。つまり、より効率は悪くなるわけです。これは悪循環で、その逆でしっかり商品が補充されていれば、同じコストで高い売り上げを得ることが出来るのです。

今世の中の自販機を見ると、非常に売り切れランプが点灯しているのを見かけます。自販機オペレーターは商品不足でどこも同じ悩みを抱えているというわけです。

今後は商品がある程度安定供給されるようになったとき、いち早く自販機に満タン商品を補充できるかの競争になってくるでしょう。しかし一度減らした自販機庫内の商品は容易に満タンにすることが出来ないのが現実です。なぜならボトルカーの積載には限度があるからです。また現在飲料の種類はとて多く、それらを効率的に定められた積載量の中に積んでいくのは、とても難しいことだからです。ルートフォロー中にボトルカー内の単品切れを起こすケースが多いと思われま。そして今夏は更に自販機節電の問題もあります。もちろん当社も自販機の輪番節電には取り組んでいく予定ですが、そんなことよりもあまり売り上げの上がらない自販機を撤去するほうが、世の中のためになっていないと思うのは私だけでしょうか？

自販機はコンセントが入った時点で電気が消費されます。消費電力はどの自販機もほぼ変わることがありません。つまり同じ電力量を使って自販機が仕事をするのであれば、よりたくさんの人に利用されることが効率的といえるのではないのでしょうか？極論を言え



ば、売上げのあまりいかない自販機は要らないということです。（今年飲料業界では100本以下は撤去という指令が出ています）

売上げ不振の自販機以外にも売り切れランプ点灯も効率的でないことは明らかです。なぜなら販売チャンスを逃す事はその自販機的能力生かしていないことになるからです。

そこでアークルでは、今月から毎年行うセッティングキャンペーン以外に、売り切れ撲滅キャンペーンを行う事にしました。それぞれの自販機がより効率的に自販機を働かせることが出来るかどうか真の自販機オペレーターとしての役割と感じたからです。



今回の震災は改めて私達にいろいろなことを問いかけたような気がします。自販機の存在意義について深く考えさせられ、またこの自販機市場があって私達の商売は成り立つので、この自販機市場をしっかり守っていかなければならない、などたくさんのことを考えました。

私達自販機オペレーターは自販機の面倒を見るプロです。

1本1本をお客様にコツコツ販売し成り立つビジネスです。

そんなビジネスですが、携われたことに感謝し、そしてこの自販機の市場を守っていかなければ、なんて思えた事が今回の大きな教訓でした。

人はいろいろな障害を乗り越えて大きく成長すると言われています。私達自販機オペレーター業界も今回のことで良く変わっていくのではないのでしょうか？皆さんは震災後得たものはありますか？

■コラム

■先月の売れ筋商品

DYDO売れ筋ベスト5		SUNTORY売れ筋ベスト5		JT売れ筋ベスト5	
1位	ダイドーブレンドコーヒー	1位	ボスレインボーマウンテン	1位	ルツインパクト微糖
2位	デミタスコーヒー	2位	ボス贅沢微糖	2位	ルツインパクトマスターズ
3位	ブレンドスペシャル	3位	ボスカフェオレ	3位	ルツプレミアムリッチ
4位	Mコーヒー樽	4位	ボス無糖ブラック	4位	ルツインパクトブラック
5位	BC葉の茶朝摘み290	5位	ボスハーフ&ハーフ	5位	ルツカフェ&クーラー

■コラム

■今夏 自販機の節電について

さて皆様もご存知の通り、今夏の節電で飲料業界も業界をあげて節電に取り組むということで、自販機の消費電力25%削減に取り組んでいくこととなりました。それでは具体的にどのようなのでしょうか？一般的なイメージとしては自販機を輪番停止するといったイメージで伝わっているのではないかと思います。つまり自販機自体を止めて商品が買えなくなること想像している人が多いと思います。そうではないのです。

今回私達がやろうとしているのは、自販機節電方法はいくつかあります。当社ではそのいくつか

の方法の中から選択するののかまたは新たに自社で方法を考えるのかは決まっていますが、今回は自販機工業会が推奨している方法を紹介したいと思います。

節電の具体的な方法を示す前に現在の自販機の節電はどのようになっているのか？を知る必要があります。自販機の総消費電力量は、2009年を基準に1991年から比較すると約64%も削減されているのです。みなさんは知っていましたか？実はこの消費電力量の削減こそが自販機の進化といっても過言でないほど、自販機の消費電力は減ってきているのです。考えてみれば、15年前は自販機の電気代は月1万円というのが常識でした。200Vの自販機があったのもその要因からでした。今ではもちろん200Vの自販機など製造していません。それは100Vの電源で充分安い電気代で収まるからです。

従来の消費電力削減機能

1、部分冷却・加温システム

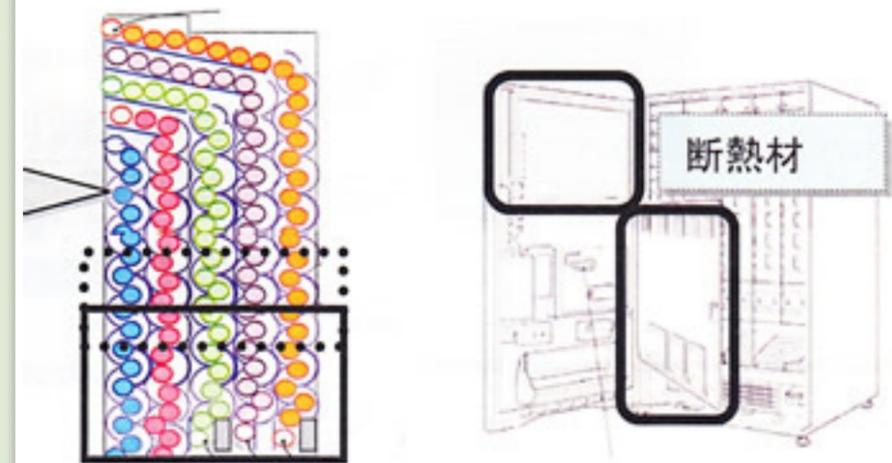
庫内全部を冷やすのではなく、部分的にもう直ぐ売れていく商品だけを冷やすことで消費電力を減らす仕組み

2、真空断熱材の採用

断熱材に保温効率の高い神君断熱材（ウレタンなどを真空パックにし金属フィルムなどで覆ったもの）を使用。

3、ピークカット機能

毎年7/1～9/30の間、午前10時～午後1時まで通常より約3℃低く冷やしこみ運転を行い、午後1時～4時まで冷却装置の運転を自動的に停止する仕組み



そしてさらに3/11以降、ほぼ全ての自販機の蛍光灯を消灯することにより約15%の削減効果を得ることができています。また2年前からヒートポンプ機の自販機が登場し特に冬場の加熱時に大きな消費電力削減効果を得ることができています。また今年度の自販機から蛍光灯がLED化され今後更に削減が期待できるといった感じでしょうか。しかしLEDについては自販機の消灯をしている今ではあまり関係ないですが・・・

さて私達飲料業界では夏場の自販機対象で最大使用電力25%削減を目標にしています。その具体案（自販機工業会案）を紹介したいと思います。

1、ピークカット後に3時間強制的にコンプレッサーを停止する。

つまりピークカットと合わせて6時間冷却装置が止まります。庫内温度は3℃から8℃まで上がると予想されます。自販機によっては若干ぬるい商品が出てくる可能性があります。しかしこれによって約14%の節電効果があります。

2、自販機の一室をホットにしてそのホット部分の加温を停止する。

つまり、一室を何も稼動しない状態にしまうことによって節電効果を狙う方法です。この方法は自販機の商品の収納本数を結果的に下げってしまうので、売り切れランプのつく可能性を高めてしまいます。しかしこれによって約15%の節電効果があります。

3、自販機を4つのグループに分け輪番停止

1のコンプレッサー停止の時間帯をグループ化しそれを輪番で行っていく方法です。細かく行うことによって約25%の節電効果が得られるのですが、ピークカット時間をずらたりしなければならぬグループが出てきて、自販機の設定に時間がかかります。そのため人手と時間がかかるので、現実問題として出来るのか？とても微妙です。

以上が自販機工業会の節電案ですが、基本的に私達オペレーターはメーカーや自販機工業会から強制されているわけではありません。しかしアークルとしては業界の一員であり、日本で商売をさせていただいているのですから協力をしないわけにはいきません。方法は一番効率的で一番成果があがり、それお客様に迷惑をかけない方法で行いたいと思います。方法はきまり次第また皆様には報告をしたいと思います。

■コラム

■前へ前へ!前へ!

バン格拉ディシュでドラゴン桜! ソーシャルビジネス

を考える

久々に興奮しながら読ませてもらいました。一読後、行動することの大切さ、逆境に負けない心の大切さをしみじみ痛感させられました。無鉄砲と思われるほど猪突猛進していく、筆者の姿にさわやかさを感じ、同時にうらやましいと思える自分に気づきました。

高校3年生にあがる春、偏差値28だった。“東京都足立区の落ちこぼれ”税所篤快。そのわずか2年後には、バン格拉ディシュの貧しい農村部に、同国初の映像教育プログラム「e-Educationプロジェクト」を発足!現地の高校生といっしょに走る先に見えているのは、国立最高峰のダッカ大学と、バン格拉ディシュの教育革命、果たして、彼らは夢を現実に変えられるのか!?22歳の著者が、自身の成長ストーリーを描いた疾走ドキュメンタリーです。

実はこの本を読んで、冒頭についての感動もあったのですがとても興味を持ったものがありました。それはソーシャルビジネスというものです。

さて皆さんはソーシャルビジネスをご存知ですか?ソーシャルビジネスとは何か?その前にチャリティについて考える必要があります。

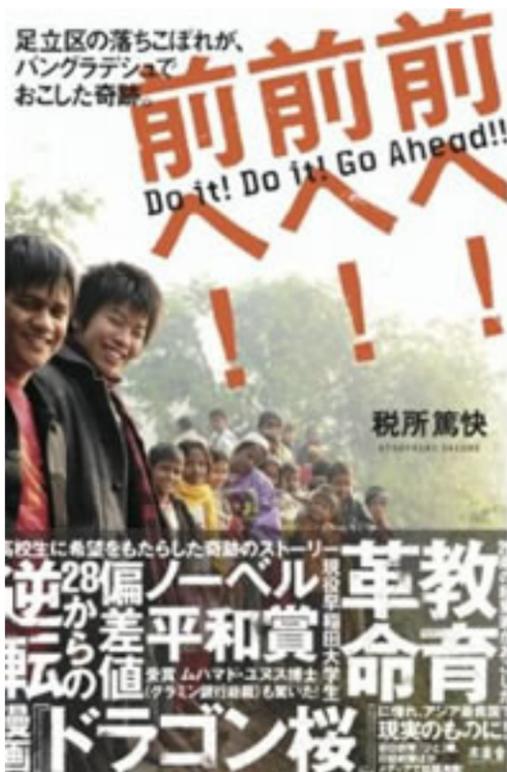
この本の中で筆者の税所君は、チャリティに疑問を持ちました。中学生の時にカンボジアで井戸掘りのチャリティを行いその4年後にその井戸が枯れている現実を知り、また、大学生のときにナイロビを訪ね、スラム街の衣料マーケットで海外からチャリティで送られた洋服が販売され、この影響でケニアの衣料マーケットが大打撃を受けているのを知るので

す。つまり先進国の人々が良かれと思っで行っているチャリティが実は現地の人々の役に立っていないことが多く、それはただチャリティをしている人々の自己満足に過ぎないのではないかという疑問を持ったのです。

そこで考えていくべきはソーシャルビジネスなのです。とても良い例が、この筆者も所属したバン格拉ディシュのグラミン銀行です。グラミン銀行はノーベル平和賞を受賞したムハマドユヌス氏が設立した銀行で、マイクロクレジットと言って無担保、低利息で小額を貧しい人々に貸付、その人々の自立させ貧困から脱出させるのに役立っている銀行なのです。

現在このグラミン銀行はバン格拉ディシュの村々に2,500の支店を設立しています。また800万人もの人々にお金を貸し付け、4,000万人以上の人々の生活に影響を与えています。この融資の返済率は現在98%以上で、優良な貸付になっています。そして融資を受けた人々の60%が貧困から脱却し、その影響は次の世代にまで及んでいるそうです。グラミン銀行より融資を受けた人々のこどもたちの識字率はなんと100%になっています。(ちなみにバン格拉ディシュの平均識字率は47%です。)

ソーシャルビジネスのポイントは投資家が利を求めないと

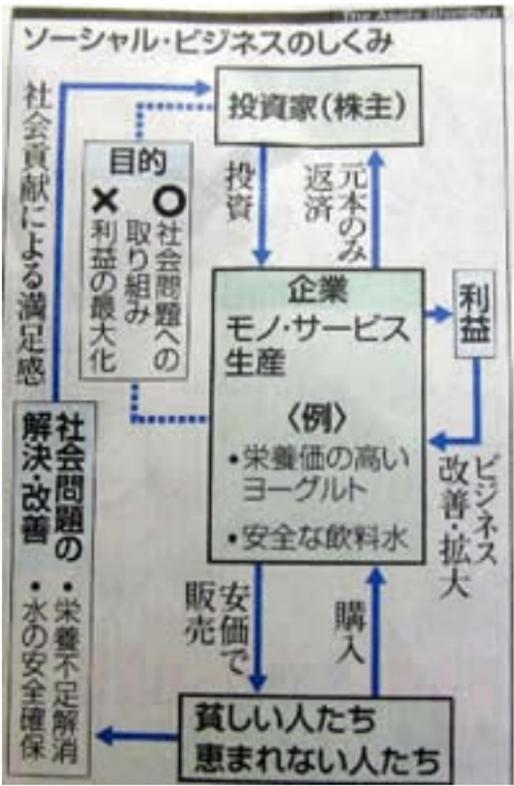


ころにポイントがあります。(左・参照)投資家はソーシャルビジネスに投資をすることによって、貧困問題や住宅問題など社会的問題が解決されることに満足感を得、利益を生むかもしれないが配当は受け取らないのです。

ユヌス氏はチャリティや寄付に関して興味深いことを言っています。返済を伴わない援助は貧困に対して無力である、慈善は貧困を救えない。貧困がなくなるには、究極的には一人ひとりが自ら自分の経済をコントロールする力と自尊心を持ち、自立することが大切である。

チャリティ(慈善)で貧困をなくすことはできない。貧困を克服するのは、一過性のチャリティではなく、循環的なシステムである。

このグラミン銀行、乳製品の仏大手ダノンや世界最大の仏水道事業会社ベオリアとの合弁で栄養価の高い安価なヨーグルトの販売や安全な飲料水の提供にあたる複数の会社を設立しているのです。そして仏企業側とは、これらの事業から利益を得ないことで合意しているということです。最近の記事ではユニクロともソーシャルビジネスを展開したそうです。



人間とは面白い動物で、欲深い一面と無私で献身的な一面の両面を持っています。残念ながらこれまでの資本主義は利益を最大限にというところに主眼が置かれ活動してきました。つまりは全てが金儲けというテーマで活動をしてきたのです。しかしこのソーシャルビジネスは無私で献身的で部分(チャリティではない)を主眼にビジネスを行うといういままでの資本主義には無い発想なわけです。

私はこの本からたくさんのお話を学ぶことが出来たと感じています。この本を読んでからソーシャルビジネスについて調べたのも一つの成果です。とても考えさせられることが多いとともに、これからのチャリティのあり方も少し考え直すところがありそうです。

是非皆さんご一読を・・・

■コラム

■震災後・・・ちょっと考えてみた



昨夜(6/6)のニュースステーションでは福島原発で非難を強いられている市民や町長が悲痛な叫びを届けようと、スパハワイアンズからの中継が流れていました。その中継を見ていてふっと思ったのが、「くれない病」です。もともと曾野綾子さんがつくった言葉らしいのですが、「他人が何かをしてくれないことに腹をたてている」感じと言ったたらわかりやすいかもしれません。

先日、福島県内の学校で子供が1年間に浴びる放射線量について1ミリシーベルトを20ミリシーベルトに基準を上げるということで、もめていましたが福島県須賀川市の主婦は「子供たちの生活は学校だけではない。1ミリシーベルトを目標としたからには、具体的に何をしてくれるのかを明確にしてほしい」と怒り心頭で要望していました。

友人が南三陸町にボランティアへ

さて皆さんがこのような立場だったらどうするでしょうか?同じように「国は何してくれるの?」って文句を言い続けますか?もちろん誰だって今までと同じ環境で同じ生活をしたいのは当たり前です。それを取り戻すために国に文句を言い続けるのがいいのでしょうか?

今、福島で問われているのは?これまでと同じ生活をしていけるのかという問題です。もっと極論から言うと、「あなたの人生どう変えますか?」ということなのかもしれません。自分の人生を

リセットして考えてみる。家とは？学校とは？勉強とは？家族とは？生活とは？人生とは？そんなことが迫られているのではないのでしょうか？

昨晚のニュースステーションに出演していた町長はさかんに放射能の数値を明確に出してほしいと訴えていました。それを出したから市民の生活は変わるのでしょうか？危ないと思っている人はさっさと地元を捨て、新しい場所に移転をしているのではないかと思います。そうです。前向きに生きていこうとする人は他人の文句ばかり言わずにさっさと行動しているです。

人が前向きに生きている限り常に乗り越える壁は出てくる。その壁を超えるたびに人生の真実を一つづつ知って心が強くなっていく。けれどそういう準備をしていない人がある日突然現実を突きつけられると突然おたおたと「くれない病」になってしまうということなのでしょう。

このことから学べるポイント

- ・「くれない病」にかからないために常に前向き発想に心がける。
- ・自分が属している大きな組織（国や企業）の不平不満を言わない。それは「くれない病」のはじまり？
- ・人生の選択肢はたくさんあって、今の人生が正しいとは限らない。
- ・いつでも柔軟な思考を持ち、やるべき優先順位を間違えない。
- ・人生何が起こるかわからない。

皆さんはどう思いますか？

■コラム

■ちょっと一言

先日大学時代の友人の訃報が届きました。まだ47歳です。彼とは大学時代野球を一緒にやっていた仲間で、下北沢のアパートによく泊めてもらったのを覚えています。

くしくも、八戸出身の彼は大学卒業後地元に戻り地元で就職したので、今回の震災を経験して亡くなっていったのです。彼は八戸高校野球部で81年春季県大会優勝メンバーの1人でした。その八戸高校が今年30年ぶりに準決勝へ進出したのです。彼は亡くなる前、野球部にバットを贈っていました。

この準決勝の時間はまさに彼の火葬の時間と重なったのです。4点リードされた5回、4番バターの久保君は贈られたバットに持ち替えなんと3ランホームランを放ちます。しかし残念ながら試合には負けてしまいました。友人も天国から手に汗握りながら応援していたでしょう。

友人の早すぎる死、とてもショックな出来事です。彼の分まで一生懸命生きなきゃと思いながら、手を合わせました。

■コラム

■アークルの人達ブログ・絶好調連載中です!

ただいまブログは6名が更新中です。

- ・所長のブログ（小田原H所長）
- ・マネージャーの部屋へ
- ・つんつるてんSTORY
- ・販促課オオクワ80mm
- ・産地直送！新鮮ネタ（海老名Nチーフ）
- ・パソオタの独り言（パンドラの箱を開けて最後に出てくるのは・・・）



タイ・チャンタブリーに消防車の贈呈を・・・

詳しくは来月号で

■2011年度のマンスリーNEWS

➡	2011.05	アークル	マンスリーNEWS
➡	2011.04	アークル	マンスリーNEWS
➡	2011.03	アークル	マンスリーNEWS
➡	2011.02	アークル	マンスリーNEWS
➡	2011.01	アークル	マンスリーNEWS

■マンスリーNEWSアーカイブ

➡	最新	マンスリーNEWSトップページ
➡	2010年度	2010年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2009年度	2009年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2008年度	2008年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2007年度	2007年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2006年度	2006年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2005年度	2005年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2004年度	2004年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	番外編	マンスリーレポート番外編

